令和５年度　学校自己評価結果等報告書

学校名（　　豊岡市立日高小学校　　）　校長名（　　村尾　和敏　　印　）

１　学校教育目標

「自ら学ぶ子　学び合う子」

２　学校教育推進の視点

○「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成
○連携・一貫教育の推進
○家庭、地域に開かれた安全で特色ある学校づくり

３　総合的な自己評価

思考を深めるための効果的な発問を考えようとする教師の取組が広がるとともに、思考法が定着して、ペアやグループで活発に話し合う児童の姿が見られるようになった。コロナ禍における工夫を活かしながら学校行事の再開・見直しに取り組み、教育活動の公開を進めることができた。サポートルームを設置し、不登校や学級に入りにくい児童の学びの場の確保に取り組んでいるが、不登校を生じさせない取組をさらに充実させる必要がある。教育活動の質を落とさずに勤務時間の適正化を図る必要がある。

５　自己評価方法（児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等）についての意見・改善点

○職員による自己評価　○参観日での保護者感想　○児童、保護者、職員によるアンケート
○学校運営協議会での評価　○学校教育改革推進委員会における協議を実施し、具体的な改善策を組織的に実施する。

６　総合的な外部評価

・サポートルームの設置、放課後登校等、不登校の児童や教室に入りにくい児童の学びの場を確保するための取組を工夫している。
・指導方法の改善や業務量の削減に向けて、教職員が効果的にＩＣＴを活用する能力を高めるために、研修を充実させる必要がある。
・特別な支援を必要とする児童一人一人の実態に応じた適切な支援ができるように、さらなる取組の充実を期待する。
・教職員、保護者の負担軽減のため、ＰＴＡ行事の精選に引き続き取り組む必要がある。

４　自己評価結果（Ａ：達成している　Ｂ：概ね達成している　Ｃ：あまり達成していない　Ｄ：達成していない）

領　域	評価の観点	評価項目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策
教育課程	・　確かな学力を身に付ける学習指導	・思考を深め合う子どもの育成に向けた授業の展開・工夫 ・少人数授業、複数指導体制、教科担任の研究実践 ・反復学習の徹底、がんばりタイムの充実	B	○自律的な学び手の育成に向けた思考法の意識的な活用 ○児童の考えのズレやつまずきを見取る力と発問や問い返しの質の向上 ○個別指導の時間の確保、講師との連携によるがんばりタイムの充実 ○教科担任、少人数授業担当の情報共有と実態に応じた指導方法の工夫 ○対話により考えを深める道徳授業の推進、道徳の授業公開 ○担任とＡＬＴによるティームティーチングの充実、打合せ時間の確保 ○学級会での話合い活動等、特別活動における合意形成の活動の充実
	・　道徳教育	・兵庫版道徳教育副読本の活用　・評価方法の確立 ・他者や自己との「対話」による道徳授業の推進 ・家庭・地域への道徳の授業公開	B	
	・　英語遊び・外国語活動・英語科	・指導内容・事例集の共有と指導の充実、ＡＬＴとの連携	C	
	・　総合的な学習の時間	・体験的活動の充実、コミュニケーション教育・ふるさと教育の実施	B	
	・　特別活動	・わくわく活動、校外児童会、話合い活動の充実	B	
学校運営	・　開かれた学校づくり	・情報発信、オープンスクール、授業参観、懇談会	A	○学校だよりやブログ、ホームページ等による教育活動の様子の積極的な発信 ○授業参観・オープンスクール・懇談会・学校行事の実施方法の工夫 ○教育活動の質を維持した上での業務量の削減、ＩＣＴやスクール・サポート・スタッフの効果的な活用 ○小中一貫・保幼小連携の取組の強化と情報共有 ○アセス・生活学習アンケートの有効活用によるきめ細かな対応の充実 ○自律した学び手の育成に向けた指導方法の工夫・改善 ○登下校指導の充実、安全ボランティア・関係機関との連携の強化
	・　勤務時間の適正化	・定時退勤日、ＩＣＴ化による事務処理の効率化（校務支援システム等）	C	
	・　引継ぎ連携システムの強化	・東中学校区小中一貫の取組、保幼小連携の取組、運動遊び	B	
	・　生徒指導（いじめや不登校の問題を含む）	・生活指導委員会の充実、組織的取組、ＳＣ・ＳＳＷの活用 ・「心の教育」、アセスの活用、わくわくひとり立ち、自立する子 ・児童理解、未然防止、早期発見、早期対応、対応マニュアル研修、個に応じた適切な支援、学びの場の確保	A	
	・　職員研修の推進	・校内研修会、対外研修の伝達・充実、メンタルヘルス研修	A	
	・　危機管理体制の整備	・校内や遊具の安全点検、通学路・危険箇所の点検・整備	B	
課題教育	・　非認知能力の向上	・演劇ワークショップの参観、全教育活動における非認知能力向上の取組	B	○非認知能力向上の取組についての校内研修の充実 ○地域の人材や教育資源の開拓と積極的な活用 ○コミュニケーション教育の授業・演劇ワークショップの公開 ○発達段階に応じたキャリア教育の実践（日高高校との交流等） ○地域・関係機関と連携した防災・防犯訓練 ○地域の自然を生かした教材の積極的な活用 ○家庭での読書習慣の定着に向けた取組の工夫、読書記録の効果的な活用 ○図書ボランティアによる活動の充実 ○タブレット端末の有効活用、発達段階に応じた情報モラル教育の充実 ○ＩＣＴ活用指導力の向上に向けた校内研修の充実
	・　ふるさと教育	・ゲストティーチャーの活用、体験活動の充実	B	
	・　コミュニケーション教育	・演劇的手法を取り入れた授業、めざすコミュニケーション能力を育成する活動の工夫	B	
	・　キャリア教育	・年間指導計画の更新、実践内容の充実、キャリアノート・キャリアパスポートの活用	B	
	・　人権教育	・「ほほえみ」の活用、心の広場、学級経営、人権ポスター・標語への応募	B	
	・　特別支援教育	・教育相談活動、特別支援教育研修、児童生徒支援教員との連携	A	
	・　環境教育	・環境体験事業、省エネ	B	
	・　安全教育・防災教育	・防災訓練、引渡し訓練、交通安全指導、メモリアルデー	B	
	・　健康教育・食育・体力づくり・運動遊び	・給食指導、新体力テストの分析活用、運動タイム、栽培活動の充実、食育の日、弁当の日、睡眠時間の確保	B	
	・　読書活動	・読書の記録、図書ボランティアの活用、教師の読み聞かせ、読書タイムの充実、蔵書増、家読	B	

※　各教科、領域、行事等に「体験活動」を積極的に通り入れ、教育活動の充実に努める。
※　上記の評価の観点は市統一とするが、各校で特色ある活動・重点項目を追加してもよい。
※　評価項目は各校の実態に応じて設定するが、外部評価者が理解しやすい具体的内容の記述に努める。

自己評価の妥当性

1　「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成
・思考法が定着し、教師の発問や問い返しの質が向上したことにより、ペアやグループで活発に話し合うことができるようになってきた。さらに、考えのよさを共有するための教師の見取りと働きかけの質を高めるとともに、後半重視型の授業展開と学習者主体の学習の実現に向けた取組を充実させる必要がある。
・不登校や教室に入りにくい児童の学びの場の確保に取り組めたが、授業づくり、学級づくり等、不登校を生じない取組をさらに推進する。
・ＡＬＴとの打合せの時間を確保し、ＡＬＴを有効に活用する必要がある。

2　連携・一貫教育の推進
・保育園、こども園、中学校との情報交換を密にし、連携・一貫教育の取組のさらなる充実を図る。

3　家庭、地域に開かれた安全で特色ある学校づくり
・オープンスクールや学校行事の再開により、情報発信を充実させることができた。今後も特色ある取組を積極的に公開する。
・学校運営協議会の委員にボランティア代表を加え、地域の人材や教育資源の積極的な活用を図る。
・地域全体で児童を見守る取組を推進するため、安全ボランティアの確保、関係機関との連携を進める。

4　その他
・ＩＣＴの効率的な活用、業務のさらなる分担化により、教育活動の質を落とさずに業務量の削減に努める必要がある。